

平成27年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から	
授業づくり	☆基礎学力の定着と主体的な学びづくり ・目指す授業像の設定と振り返り ・特別支援教育の視点を生かした学ぶ喜び、分かる楽しさが味わえる授業づくり ・基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るとことんテスト ・言語活動の充実	授業の内容がわかると答える生徒 80%	B	81%	○全国学力学習状況調査において、本校生徒の学力定着状況はほぼ全国平均と同程度であった。評価指標とした生徒アンケートでは、「進んで先生に聞いたり、自分で調べたりする。」で目標値に及ばなかった。今年度の校内研修のテーマを「主体的に学ぶ生徒の育成」とし、基礎学力の定着と言語活動の充実を目標として取り組んできたが、与えられた課題への取組には成果が見られるが、生徒が進んで学ぼうとする主体的な取組については課題が残った。 ※今年度の反省を踏まえ以下の点を重点に教育活動を展開する。 ・基礎学力の定着：とことんテストの見直し 生徒の学習意欲の向上を図る指導 ・学び方指導：生徒が主体的に学ぶ学び方指導 「家庭学習の手引き」の活用 ・授業力向上：校内研修、OJT研修 ・小中一貫教育：9か年の学びの連続性を踏まえた授業の実践	・生徒アンケート、保護者アンケートの結果について、評価指標の達成度は全校のものだが、学年ごとの達成率はどうか。学年ごとの評価も必要ではないか。 ・生徒の評価に比べて保護者の評価が厳しい傾向がある。家庭でのコミュニケーション不足もあるのではないかと。学校の様子が分からない中でアンケートなので回答しにくい。 ・メールやLINEなど、親の目に見えない部分が多くなっている現実がある。
	☆学び方指導 ・各教科の学び方に関する教科ガイダンスの充実 ・学習規律（発表の仕方、話の聴き方等）の定着 ・「家庭学習の手引き」の活用	進んで先生に聞いたり、自分で調べたりすると答える生徒 70%		66%		
	☆一人一人の存在感と共感的な人間関係 ・安心感のある学級経営の工夫 ・人間関係づくりプログラムとQ.Uを生かした学級づくり ・挨拶、黙働、靴揃え	毎日家庭学習をすると答える生徒 80%		84%		
仲間づくり	☆一人一人の存在感と共感的な人間関係 ・安心感のある学級経営の工夫 ・人間関係づくりプログラムとQ.Uを生かした学級づくり ・挨拶、黙働、靴揃え	誰に対しても挨拶をすると答える生徒 90%	A	91%	○本校3大行事（鉄人遠足、体育大会、文化発表会）等を通して、学級の絆を強め、仲間づくりを推進することができた。評価指標とした生徒アンケートでは目標値を達成することができた。特にルールやマナーを意識して学校生活を送ろうとする生徒が多く、学級の生活が楽しいと答える生徒が90%を超えている。一方で、不登校生徒が今年度も多く、学校生活に不応を起こしてしまったり、友人との適切な人間関係の構築が難しい生徒への対応が課題となっている。 ※今年度の反省を踏まえ以下の点を重点に教育活動を展開する。 ・学級づくり：人間関係づくりプログラムの活用 共感的な人間関係の醸成 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの効果的活用 ・小中一貫教育：挨拶、黙働、靴揃え指導の徹底	・今の先生が忙しい状況は分かるが、先生が楽しんで、勉強の楽しさを伝えることが大切ではないか。なぜ、これを学ぶのか、生徒に興味を持たせることが必要だと考える。 ・とことんテストは、豊田中の特色であるが、その効果はどうか。生徒にとって基礎力の定着は重要だと考える。 ・生徒指導における粗暴行為の件数だけ見ると数が増加している。粗暴行為というと大きな問題と思われるが、生徒指導における問題行動の枠組みを変える必要があるのではないかと。 ・いじめや心の天気は、不登校の子や問題行動とリンクしているのか。 ・豊明会を含め、地域で学校を支援していくことができないか。
	☆自ら考え判断し行動する力を育てる学級、生徒会活動 ・一人一人の役割と責任の自覚化 ・話し合い活動の充実 ・3大行事を生かした取組	ルールやマナーを守っていると答える生徒 85%		95%		
	☆目標に向かって挑戦するところざしづくり ☆健やかな心と体づくり ・「ところざしづくりカリキュラム」の実施 ・地域人材の積極的活用、各種体験（職場見学、職業講話、職場体験、ボランティア活動、クリーンアップデー等）の効果的な活用 ・生活安全、交通安全、災害安全に関する指導の充実 ・姿勢、歯磨きの習慣化	学級の生活が楽しいと答える生徒 85%		92%		
ところざし	☆目標に向かって挑戦するところざしづくり ☆健やかな心と体づくり ・「ところざしづくりカリキュラム」の実施 ・地域人材の積極的活用、各種体験（職場見学、職業講話、職場体験、ボランティア活動、クリーンアップデー等）の効果的な活用 ・生活安全、交通安全、災害安全に関する指導の充実 ・姿勢、歯磨きの習慣化	難しいことにも失敗を恐れず挑戦すると答える生徒 70%	A	71%	○今年度初めて2年生において「未来授業」を実施した。また、これまで1日だった職場体験を2日間で実施した。生徒は体験活動を通して自分の将来の目標を考えるきっかけとなった。また、防災教育の観点より小中合同引き渡し訓練を行い、学府としての一貫した防災学習について小中で検討する機会とした。出席率は目標値を何とか達したという状況であり、健やかな心と体づくりについては課題がある。 ※今年度の反省を踏まえ以下の点を重点に教育活動を展開する。 ・コミュニティ・スクールディレクターの効果的活用 ・総合的な学習の時間等で生徒のところざしを育む体験活動の充実 ・地域人材の積極的活用 ・保護者や地域への積極的な情報発信	
		出席率 95%以上		95%		

学校関係者評価を受けてのまとめ

今年度の学校評価、学校関係者評価を受け、来年度は「言葉を大切にできる学校」を学校経営目標とする。言葉で考え、心と行動をつなぐこと、生徒がところざしを土台として、自己決定、自己存在感、共感的な人間関係を構築できるよう教師の意図的な働きかけを行っていく。

- ・とことんテストについては見直しを検討し、各教科で生徒に身に付けさせたい力を明確にし、基礎・基本の定着を図る。言葉を大切にできる授業を意識し、生徒の「気づき」を生かした授業、生徒の「問い」を大切にできる授業を実践する。生徒が学ぶ喜びや、分かる楽しさを味わうことができる授業を展開することにより、進んで先生に聞いたり、自分で調べたりする主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。
- ・人間関係づくりプログラムの効果的な活用とQ.Uを生かした学級づくりに取り組み、一人一人の生徒の居場所づくり、安心感のある学級経営を展開する。
- ・キャリア教育の視点から「ところざし」を育む教育として、総合的な学習の時間の充実を図り、1年生における「地域学習」、2年生における「未来授業」「職場体験」、3年生における「防災学習」を実施する。特に、コミュニティ・スクールとして、地域との連携、地域に開かれた学校づくりを一層推進するとともに、地域人材を積極的に活用し、地域の教育力を生かしたコミュニティ・スクールの体制づくりを行う。
- ・小中一貫教育の視点から9年間の学びの連続性を意識した指導の充実を図る。小中交流を積極的にを行い、ながふじ学府としての教育活動を展開することで、地域の一員であるという自己肯定感を実感できるようにする。また、小中の教員の交流を通して、生徒一人一人の理解を深め、個に応じた適切な指導を継続して行うことにより、不登校への対策を講じる。